

97 オオコノハズク

(フクロウ目)

兵庫県ランク:B

繁殖個体群:調 越冬個体群:B 通過個体群:調

Otus lempiji

環境省ランク:指定なし

種の概要

亜種オオコノハズクは、北海道、本州、四国、九州で留鳥であるが、北方の個体は冬期には南方へ渡る。別亜種リュウキュウオオコノハズクは、沖縄で留鳥として分布する。兵庫県では主に10-翌4月に越冬個体の記録がある。平地から山間の比較的発達した広葉樹林内に生息し、樹洞に営巣する。昼間は大木の洞や大木の横枝にとまって休み、夜間活動して小型の哺乳類や小鳥類、昆虫類などを捕食する。

国内分布

北海道、南千島、本州、佐渡、隠岐、見島、四国、九州、対馬、五島列島、屋久島、伊豆諸島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島



渡りの途中 写真提供:松重和太

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、(姫路市)、(尼崎市)、明石市、(西宮市)、(芦屋市)、(伊丹市)、(相生市)、(豊岡市)、(加古川市)、(南あわじ市)、(上郡町)、(香美町)、(新温泉町) ※県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

CランクからBランクに変更。

古い記録では県内に広く生息し、神戸市内では例年繁殖していたとされる。近年では繁殖期の観察記録はない。観察し難い上に夜行性のため記録は極めて少ない。最近、公にされている記録は少ない。

保護上の留意点

山麓から山間の大木の残る発達した森林環境を広く保全することが必要。近年の生息実態が不明なため、過去に記録のある森林はできる限り残すことが重要。